

第9回新任教員研修セミナー閉会挨拶

今年で9回目を迎える新任教員研修セミナーに参加された皆さん、今回もまた内容の充実した3日間を送られたことと拝察いたします。

いつもながら委員長の明星大学副学長菊地滋夫先生はじめ委員の先生方のご尽力に感謝申し上げますとともに、このセミナーを共催してくださいました「学術・文化・産業ネットワーク多摩」にも厚く御礼申し上げます。

今年の研修も昨年同様、学生たちが主体性を持って学ぶアクティブ・ラーニングをいかにして実現してゆくか、その方法論について熱意溢れる議論が展開されたものと存じます。昨年はアクティブ・ラーニングを深化させる方法の一つとして教員側が自ら作るティーチング・ポートフォリオチャートの創造力を高めるにはどうすればよいかという点に力点が置かれていたと思います。今年はさらにそれを深めた討議が行われたものと存じます。そのことはきめ細かく幅広いセッションが用意された事実からもうかがわれます。

肝心なのは欧米諸国の学生たちが極めて個性的で問題意識をしっかりと持っているのに比して、ともすれば内向的で積極性に欠けると言われる日本の学生たちにその習慣をきちんとつけてもらえるかどうかです。その方法は千差万別でありましょうが、これから長い教員生活を送る皆さんにとっては避けることのできない大きなテーマになるのは明らかです。

もうひとつ、皆さんに考えていただきたいのは、現在、社会に蔓延している実学のみを良しとする風潮についてです。ノーベル賞受賞者の先生方が異口同音に口にされる、基礎的学問の重視、尊重をどう考えるべきか。それこそアクティブ・ラーニングを実行され続けた大学者たちの発言をいかにとらえて皆さんの学生たちにあい対すべきか、ともすれば目先の成功だけを狙い、費用対効果ばかり気にする、利益一辺倒の企業経営者的発想が、今後の日本の大学教育にどのような影響を及ぼすかを考えながら学生たちと共に、歩んでいただきたいと願います。

このセミナーが少しでもお役に立てれば、我々主催者としては大きな喜びであります。皆さんのご健闘をお祈りして閉会の挨拶とさせていただきます。

館長 鈴木康司